




杉浦 敏 議員

## コミュニティバスで、デマンド方式を研究してはどうか

問

コミュニティバスについて聞く。

(1) 巡回福祉バスとコミュニティバス「」の1年間の利用者総数は何人か。


 11年から運行していた巡回福祉バスに代わった市営バス。22年の導入時に、運賃有料化等、路線バス色を強めた。

(2) 市は22年度決算で約1億2千576万円の予算を使っている。


三重県木曽岬町のバス予算は3千54万円と聞いており、10万人を超える利用者がある。

木曽岬町は自主運行で形態が違うが、なぜ市はできないのか。

研究してはどうか。

(3) 三重県玉城町のオンデマンドバス「」の事例を参考に、研究してほしいがどうか。

答

 三重県玉城町が運営する公共バスで、乗り合いタクシー方式により、希望する約150カ所のバス停で乗降が可能。配車やルート決定に、東京大学が開発した運行システムを活用しているのが特徴。実証実験中で、運賃は無料。

(4) 首長としてリーダーシップを執り、全力を挙げ知恵を絞ってほしいがどうか。

### 予約の手間を考慮し慎重に検討

答 防災安全課長

(1) 巡回福祉バスは21年度約6万7千人、コミュニティバスは（22年12月～1年間）約6万5千人で、約3.2%の減少となっている。

(2) 市の場合、道路運送法4条「」で運行している。

木曽岬町の実績を推測すると、駅までの距離が遠い所に団地等があり利用され

やすく、1路線だけのシンプルな路線で、駅まで早い。市は人口集中地域が駅に近く（バスが利用されにくく、路線がループしており到着まで時間が長い。

される法律。市バスもこれに該当し、市（協議会）が主体となり三重交通に運行委託している。

(3) 23年11月に担当職員を現地で研修させた。

オペレーターなしで（配車等）ができるシステムだが、予約の9割は電話でオペレーター対応しており、一番売りの部分がうまくいっていないかと思っている。




デマンド方式は、空車は防げる。導入に向けては、個人が事前に予約しなければならず、非常に煩わしいという問題を慎重に検討しながら、進めていく必要があるかと思っている。

答 市長

抜本的な見直しとして、通勤、通学等の足という面と、細かくバス停を作る福祉バスの色合いが混在しているのが現状で、福祉部門は、例えばタクシー補助制度も含め、検討していく必要があるかと思っている。

(4) 木曽岬町や玉城町も参考にしなければならぬ。バス停数、ダイヤ、運行日数も、精査を加えていかなければならない。

 路線バスやタクシー等、一般的な有料旅客事業に適用

24年度、ほとんど国補助金がないことを前提に、どう利用してもらうか正念場に来ていているかと思っている。